



障害福祉課の体制強化

北九州市障害福祉団体連絡協議会研修会

五月二十四日(木) 十八時三十分よりウエルとばた六階A・B会議室にて北九州市障害福祉連絡協議会(以下障団連)主催で「障害福祉課の体制変更と平成二十四年度障害福祉サービス等のポイント」と題して行なわれました。

「さわやか」から三名が参加し、障団連加盟団体を含め約五十名が参加しました。障害福祉課早崎寿宏課長より今年四月から着任された新課長の紹介があり、その後研修会に入りました。

早崎課長より平成二十四年度障害福祉課の体制と変更について説明がありました。「北九州市においては、昨年からは障害者支援計画の策定委員会を発足し、三〇名の委員のうち障害当事者が半分入り、計画を作りだしていただきました。

障害当事者の方と

一緒に作りあげた

今振り返ると、この計画事態は行政の計画ですが、



障害福祉課 早崎 寿宏 課長

障害当事者や委員会の方々から、たくさん意見などをいただき、元々は障害者基本法の趣旨のように障害当事者の方と一緒に作りあげた計画と思っています。

この計画の中では、発達障害者の方の相談窓口などいろいろな柱を作りました。この計画の百六十二の事業を今後六年間で、私たちそれと皆様方と一緒に優先

第一回 「さわやか」理事会開催

五月十三日(日) 九時十五分よりウエルとばた七階七D会議室で特定非営利活動法人通達センター「さわやか」平成二十四年度第一回理事会が開催されました。

初めに司会の山田理事長より開会宣言があり、資格審査委員に高原事務局長が選任され、この理事会は有効に成立する旨、報告がありました。

議長は、定款に基づき山田理事長が選任されました。

順位を考えながら、進めていくことになっていきます。この度、障害福祉課では、体制の強化という事で職員数などを大幅に増員しました。

予算額については、この五年間で大幅に延びています。今北九州市では、人件費及び職員の削減に取り組んでおり、その様な中でも障害福祉課については、昨年度の体制より二十二名増員の五十名となりました。

施策を進めていく為の

体制強化の意思表示

その五十名の中には臨時職員や兼務の方も含まれていますが、係っている事業については、市長などが障

害者に対する思いや、この施策を進めていく為には体制強化の意思表示だと思っただけであればと思います」と話されました。

続いて、早崎課長は障害福祉課の組織と四名の課長の業務について説明され、さらに、障害福祉課の担当職員と担当業務についても細かく説明されました。

そして、「何か困った事などがありましたら、遠慮なく連絡をしていただきたいと思います」と話されました。

林氏より「今回の研修会の目的として、個別の団体と障害福祉課が連絡を取りやすいようにする狙いもある」と話されました。

また、議事録署名人に、梶原常務理事と高原事務局長が選任され、その後審議に入りしました。

初めに高原事務局長より情勢報告を行いました。

次に貞谷事務局長より平成二十三年度活動報告があり、梶原常務理事より平成二十三年度収支決算報告を行い、全て満場一致で採択されました。

続いて、山田理事長より平成二十四年度活動方針(案)



梶原常務理事より平成二十四年度事業計画及び収支予算(案)の提案があり、承認されました。

次に山田理事長より六月十日(日)に行われる第九回「さわやか」定期総会及び役員改選について提案があり、満場一致をもって承認されました。

以上で、理事会の議案全ての審議を終了し、十一時に閉会しました。

事務局よりお知らせ

第一回

「さわやかあるこうかい」

を開催します

日時 七月一日(日)

一〇時より

詳細は、後日お知らせします。



ります」と話されました。

続いて柴田憲志障害福祉施設再整備担当課長より障害福祉サービス等に関する福岡県からの権限委譲及び障害福祉制度の改正について(概要)説明がありました。

最後に参加者の意見として、「障害者当事者の立場として北九州市に置かれている厳しい予算状況の中で、障害者予算を増やしていただいた事、職員数がスリム化を図らなければいけないという今、自治体の立場の中で要員の充実が図られたという事、さらに市の担当者、担当業務について説明をいただいたことについて高く評価をし、感謝を申しあげたいです。市長を初め、関わる方たちに報告をしてほしいです」と話され、研修会は二十時三十分を終了しました。

済生会八幡総合病院 名誉院長

合屋 忠信 先生を偲んで



福岡済生会八幡総合病院名誉院長の合屋忠信先生が平成二十四年五月九日に逝去されました。七十一歳でした。

五月十日に北九州市で行われた告別式は、済生会八幡総合病院と合屋家の合同で行われました。生前に親交のあった多くの方々がお別れに来られていました。そして広い会場にはたくさんのお花が飾られ、そのお花は大きな斎場の玄関からロビーの奥までをも埋め尽くしていました。

合屋先生のお人柄と、生前の御人徳を偲ぶことができませんでした。

「さわやか」からも三人が出席させていただき、これまでのご厚情に心から感謝するとともに、ご冥福をお祈りしてきました。

合屋先生には「さわやか」を設立するにあたって、大変なご尽力をいただきました。

平成八年、当時の北九州市腎友会で通院送迎事業を行うことを決めました。

そこで、全国腎臓病協議会(全腎協)の当時の(故)小林事務局長が北九州市に来所され、北九州市の透析の基幹病院である、済生会八幡総合病院の中の一室を貸していただけないでしょうか」というお願いをしたところ、快く承知していただきました。

以来一六年間現在も「さわやか」は済生会八幡総合病院の一室をお借りして、事業を継続していくことができています。

また、一周年、五周年、十周年の各記念式典を行った時には、必ず参加していただき、私たちが、ボランティアさんを励ましていただくような、あたたかいメッセージをいただきました。

「さわやか」の創立五周年を記念してビデオを制作することになり、その時も合屋先生に相談し、先生のコメントや済生会病院の透析室と病院ロビーでの撮影を快く許可していただきました。

また、透析室での撮影には、合屋先生自ら出演していただき、患者さんとの診察風景が映像に残っています。

時々事務所に顔を出されては、お茶を飲みながら送迎の状況や、患者さんやボランティアさんの様子を聞いたり、何気ない世間話をしておられました。

十年ほど前に、透析が終わった患者さんの送迎中に考えられるトラブル(透析後の出血)についての問題がクローズアップされたときに、合屋先生の所へ相談に行きました。先生は快く「透析患者の透析後出血と対応」について細かく書いていただき、ご指導くださいました。現在でも、「さわやか」の手引書にそのまま使わせていただいております。

平成二十一年に院長を辞職されるときに、「さわやか」の事務所に来られて、「後のことは松股院長によく話してあるので、何も心配しないで、これから頑張ってください」と励まし言葉をいただきました。

本当に感謝の気持ちでいっぱいです。合屋先生、ありがとうございました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

「さわやか」事務局一同 合掌